

会 議 録

平成 28 年 5 月 18 日調製

審議会等名	平成 27 年度 第 2 回三条市文化財保護審議会		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成 28 年 3 月 29 日（火）午前 10 時～11 時 30 分		
開催場所	三条市中央公民館 大集会室	傍聴者	2 人
出席者	審議会委員 荒木会長、渡辺副会長、石澤委員、岩田委員、佐藤委員、関委員、高橋委員、田中委員、長谷川委員、平山委員、松井委員、松岡委員、六原委員 事務局 長谷川生涯学習課長、金子課長補佐、田村係長、勝山主任		
欠席者	岡村委員		
議題	(1) 国登録有形文化財（建造物）の登録について 1) 旧外山虎松商店店舗兼主屋の国登録有形文化財（建造物）の登録について 2) つるがや店舗兼主屋の国登録有形文化財（建造物）の登録答申について (2) 新潟県指定有形文化財「保内三王山古墳群出土品」の指定について (3) 『三条市歴史的建造物調査報告書 I』の刊行について (4) 平成 27 年度芝地鶏（日本鶏）等級審査について (5) 『三条市文化遺産リスト』について (6) その他		
	1 開会のあいさつ		
	2 議題		
	(1) 国登録有形文化財（建造物）の登録について 1) 旧外山虎松商店店舗兼主屋の国登録有形文化財（建造物）の登録について 2) つるがや店舗兼主屋の国登録有形文化財（建造物）の登録答申について		
荒木会長	事務局より説明願いたい。		
事務局	昨年 7 月に国登録有形文化財の登録の答申があった旧外山虎松商店店舗兼主屋の建造物について 11 月 17 日に官報告示があり、正式に国登録有形文化財に登録され、3 月 12 日に所有者へ登録証と登録プレートを伝達した。これで、三条市内の国登録有形文化財（建造物）は 20 件となった。 また、国文化審議会は、3 月 11 日に同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに三条市内に所在するつるがや店舗兼主屋を国登録有形文化財に登録するよう文部科学大臣に答申を行ったので報告する。 答申のあったつるがやは、中心市街地の大通りに面して建つ和菓子店で、建物の正面外観のせがい造の入母屋屋根や建物内部の吹き抜けの茶の間などに三条地域の町家の特色がよく示されている。建築年代は大正 13 年で、登録基準は「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当する。		
平山委員	事務局から説明のあった 2 件の建造物については、既に文化財保護審議会で調査報告をしているが、補足説明をさせていただく。		

	<p>旧外山虎松商店の建造物は昭和 27 年に造られたものである。聞き取り調査で、戦前に同じような 3 階建ての建物があったが、昭和 20 年 8 月の終戦間際に壊すことになった。荒木会長から出された文化遺産リスト候補の資料写真に戦前期の外山虎松商店があるが、非常にいいものであったので、そのデザインを生かしながら再建したと伺っている。</p> <p>つるがやの建物は茶の間の吹き抜けの部分に特に見るべきものがある。また、外観正面のせがい造は三条地域に特に多いもので特徴となっている。</p>
荒木会長	<p>質問、意見はないか。</p> <p>(質疑、意見なし)</p>
	(2) 新潟県指定有形文化財「保内三王山古墳群出土品」の指定について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	<p>平成 26 年に三条市指定有形文化財となった保内三王山古墳群出土品 161 点のうち 132 点が、新潟県における古墳文化を考える上で欠かすことができない貴重な資料であることから、新潟県指定文化財に指定されたので報告する。</p> <p>保内三王山古墳群は、信濃川右岸の丘陵上に立地している古墳群である。古墳時代前期と後期で構成される古墳群は、新潟県内ではほかにはなく、県唯一の確認例となっている。昭和 60 年、61 年に確認調査が実施され、指定物件はその調査で出土したものである。出土した遺物は、埋送儀礼又は副葬品に使用された須恵器、土師器、金属製品、石製品、ガラス製品などがあり、古墳時代前期と後期における大和王権と当地域の関係を示すことに加え、埋送儀礼の変化を追うことができる貴重な資料と評価されている。11 号墳や 5 号墳などの主な出土品は、現在三条市歴史民俗産業資料館で展示公開している。</p>
荒木会長	指定文化財の員数が 132 点という非常に多い数で驚いたが、どのようなもので多く指定になっているのか。
事務局	今回新潟県指定文化財となったものは、土師器、須恵器などの焼き物の外に副葬品の金属製品、玉類も指定になっている。玉類の細形の管玉は首飾りで 62 個連なっており、個々にカウントし 62 点となり、またブレスレットとして使われたと思われるガラス玉も 34 点あることなどから員数が多くなっている。
荒木会長	高杯が指定されていると思うが、どこから出土したものか。
事務局	須恵器の高杯は、古墳後期の 12 号墳から出土したものである。
荒木会長	三条市歴史民俗産業資料館で展示されているので、各委員は機会があったら現物を是非見学していただきたい。
荒木会長	<p>質問、意見はないか。</p> <p>(質疑、意見なし)</p>
	(3) 『三条市歴史的建造物調査報告書 I』の刊行について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	過去に調査を実施した歴史的建造物の調査報告書を平山委員から執筆、編集していただき刊行した。今後も引き続き調査された物件の報告書を刊行し、歴史的建造物の記録保存に努めていきたい。報告書の内容については、平山委員から説

	<p>明をお願いしたい。</p>
<p>平山委員</p>	<p>報告書に掲載した歴史的建造物は過去に調査を実施したもので、升箕社、升箕社古宮、嵐溪荘、遠人村舎、旧新光屋米店、燕屋旅館、山本電気倉庫、川俣家住宅長屋門の8件である。</p> <p>升箕社は升箕社古宮とともに既に三条市指定文化財に指定されている物件である。伝来する棟札類27枚が残されている。本殿は明治26年に柏崎の名工篠田氏が造ったことがわかる。本殿に棟持柱があり柱の一部に鉄が巻いてあって、柱を回すといふことがあるとされている。拝殿の方が本殿よりも古く、寛延元年(1748)年江戸時代中期に造られた。古宮は貞享4(1687)年江戸時代前期に造られたもので、棟札も残されている。</p> <p>嵐溪荘緑風館の建物は、燕駅前にあったものを昭和30年頃移築したもので、当時の姿が残っているが、敷地の関係で玄関の位置が変わっている。非常にレベルの高い客室が造られている。</p> <p>遠人村舎は東京の諸橋先生のお宅にあったものを移築した建物である。大漢和辞典には序文を遠人村舎において書いたとあり、そのようなことから文化的な意味が高いと考えられる。</p> <p>新光屋米店の主屋は、昭和3年頃の建築と推定され、大正時代の終わりから昭和時代の初期に木造入母屋造妻入せがい造で背の高い建物が三条で造られるようになるが、その建物の一つと考えられる。また、主屋の背面に煉瓦造りの建物がある。この建物は大正時代のもので、銭湯として使われたものを新光屋が買い取り精米所として使っていたものである。</p> <p>燕屋旅館は3階建てで昭和6年の建築である。平成25年に解体された。木造入母屋造妻入せがい造で昭和初期の三条地区の特徴をよく示している。昭和38年に外壁をモルタルで修正している。終戦間近の時に取り壊しや3階部分を取るよふにという命令があり、燕屋旅館も取り壊そうかという時に終戦になったとのことであつた。背面には土蔵もあつた。</p> <p>山本電器倉庫は外観が洋風の建物である。もとは新潟県計量検定所三条支所の建物であつた。当時は曲尺の県内生産の96%が三条で生産されていて、全国一の生産量を誇っており、その全てがこの検定所を経て全国に出荷された。昭和初期の建築と考えられ、その後建物は民間に払い下げられたものである。三条市の近代産業遺産として重要である。</p> <p>川俣家住宅長屋門は月岡にあり、聞き取りによれば見附市の旧渋谷家から三条市へ昭和50年代前半に移築したものである。天保9(1838)年の棟札が見附市に残されている。当初の規模と形式をよく踏襲し、非常に大きい長屋門である。</p> <p>この報告書をテキストに、市民の方を募つて歴史的建造物の見学会をさせていただき非常に好評であつた。</p>
<p>荒木会長</p>	<p>山本電器倉庫、旧新潟県計量検定所三条支所であるが、報告書に新潟県計量検定所は、明治26年に県庁内に設置され、三条支所が明治33年に設置されたとある。この頃、三条での曲尺の生産が非常に盛んになり、新潟市まで運んで行って</p>

	<p>検定を受けるのは大変な手間がかかるということで、業者が三条に検定所を設置してほしいと運動して三条支所が設置されたと聞いている。建物が残っているということは大変貴重である。</p> <p>升箕社の本殿が柿ぶきとあるがどういうものか。</p>
平山委員	<p>柿とは木を薄く割いて、それを原則的に竹の釘で留める板ぶきのようなもので、非常に薄い板でふいたものである。檜皮ぶきは檜の皮でふいたものである。</p>
荒木会長	<p>長谷川委員は升箕社の地元でいられるが、建造物の維持管理はどうか。</p>
長谷川委員	<p>老朽化の箇所も見られ維持していくのは大変である。</p>
荒木会長	<p>質問、意見はないか。</p>
	<p>(質疑、意見なし)</p>
	<p>(4) 平成 27 年度芝地鶏（日本鶏）等級審査について</p>
荒木会長	<p>事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>平成 27 年 8 月 23 日に三条市日本鶏保存会で、芝地鶏等級審査会が開催され、三条市芝地鶏（日本鶏）等級審査会審査基準により審査が行われた。今回の審査会では、当日は 6 羽の出品があり、総合評価が A となった芝地鶏が雄 2 羽、雌 1 羽の合計 3 羽であった。優良評価となった 3 羽を登録台帳に登録したいと考えている。</p>
荒木会長	<p>質問、意見はないか。</p>
	<p>(質疑、意見なし)</p>
荒木会長	<p>等級審査で優良評価となった 3 羽について、登録台帳に登録することでよいか。</p>
	<p>(異議なし)</p>
	<p>(5) 『三条市文化遺産リスト』について</p>
荒木会長	<p>事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>市内に所在する文化財の適切な保護を図る基礎資料として作成された『三条市文化遺産リスト』に新たに追加が必要と認められる文化遺産について、荒木会長、関委員、平山委員から追加候補物件の提出があったので、各委員から物件の説明をお願いしたい。</p>
荒木会長	<p>かつて明治、大正、昭和の初めの頃に写真を撮るということは大きな暗箱によるもので、特にキャビネ判暗箱が多く使われた。ガラス乾板に露光させて撮るという非常に手間がかかるものであった。外山虎松さんが撮影された 62 枚のキャビネ判写真乾板が残されている。撮影されたものを見ると自分の店に誇りを持って写真を撮っていたことがよく分かる。また、武徳殿、常盤橋、嵐川橋のほか三条町から三条市にかけての行事の写真も多く残されていて貴重である。</p> <p>八百枝康三さんは明治時代後期に三条町に来て歯科医院を開業され、趣味としてキャビネ判の暗箱で撮影され、多くのキャビネ判写真乾板が残されていて貴重である。</p>
関委員	<p>旧石田利八家の系譜録、それに「利八渡世世渡りの事」が書かれていて折本になっている。種類としては古文書で、昭和 29 年刊行の『三条市史資料 I』にも紹介されている。内容は石田本家の系譜と分家の石田利八家の系譜録。また、八十</p>

	里越をしての行商や石田家の関東周辺への金物売買の経過を記している。関東への金物販売を広めた石田家記録により「三条の産物」の歴史が分かる資料として、またこの経路が八十里越や三国越という街道であったことなどがうかがえる貴重な資料である。なお、「大日本国郡輿地路程全図」が附属し、明治時代にはこの絵図をたずさえて販売に従事したものと思われる。
平山委員	民間医院の建造物で、木造下見板張で洋風の外観を持つ2階建てで大正8年頃の建築と考えられる。 また、個人住宅主屋は切妻妻入形式の町家で、正面軒の低さなどから大正時代初期頃までの建築と推察される。
荒木会長	何か質問、意見はあるか。
平山委員	外山虎松商店の写真は、鉄筋コンクリート造の店舗建築中。左側に「今般店舗改装ノ為、向側南方五軒目営業仕り居り候間此段謹告 昭和八年五月 外山虎松商店」などと荒木会長の詳細な解説が記されていて非常に興味深い。
荒木会長	これが外山虎松商店の店舗を替えて営業しているという意味なのか明らかではない。
平山委員	もう一枚の古い写真の説明で「一ノ木戸の通りから外山虎松商店を見る。その角を曲がるのが本道、まっすぐ行くと田町に出る。」とあるが、これが古い外山虎松商店を撮ったものか。
荒木会長	そうだと思う。強制疎開で上町から一ノ木戸商店街に通じる道ができ、神明宮の敷地はかなり削られた。
平山委員	関東大震災の犠牲者と思われる写真とあるが、複写の可能性はないのか。
荒木会長	それも考えたがキャビネ判暗箱で複写するという事は非常に難しい。あるいは元の原版があり、それをうまく合わせればできるが、その場合は左右が逆になってしまう。非常に疑問の多い写真である。
荒木会長	石田利八家の資料に「日料取」と書いてあるが、この字で書いてあったのか。
関委員	日雇いのことであるが、資料に使われているままの文字である。
荒木会長	資料的価値はどうか。
関委員	三条商人の販路などを知ることができる貴重な資料だと思う。
荒木会長	他に質問、意見はあるか。
	(質疑、意見なし)
荒木会長	5件について、『三条市文化遺産リスト』に追加掲載してもよいか。
	(異議なし)
	(6) その他
荒木会長	他に何かあるか。
平山委員	平成21年に大崎浄水場の建物を調査した。水道敷設に関する文書類も残されていて、後日その調査もさせていただいた。一番古い資料は明治27年に三条町で水道を引く最初の計画のものである。お雇い外国人バルトンが三条町に来て、どのように水道を引いたらいいか調査した資料が残っている。このことは、『三条市史』に書いてはあったが、全国的にほとんど知られていない。バルトンは水

	<p>道史研究者では知らない人がいないほどの人物であった。なぜ三条町に来たのか、三条以外にどこの調査をしたのか知りたいと思ったが、建物を調査した当時は分かっていなかった。</p> <p>バルトンは『都市の給水』という本を英語で書いていて、水道敷設の教科書としていたものがあったことが分かり、7年ほどかけてその翻訳とバルトンが三条町も含めて、どこの水道敷設の調査を行ったのかなどの足跡をまとめ、昨年11月に出版することができた。三条市での調査がなければここまでやらなかったと思う。三条市に1冊寄贈させていただく。</p>
荒木会長	<p>労作である。大崎浄水場の調査がきっかけとなったことは素晴らしいことである。</p>
事務局	<p>信濃川火焰街道連携協議会で新しいパンフレットを作成したので配布させていただいた。また、協議会で「火焰型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に」のアピールに取り組んでいるが、遺跡展示会のイベントでアピールするために三条市の長野遺跡、吉野屋遺跡出土の火焰型土器の写真を入れた特製クリアファイルを作成したので、こちらも配布させていただいた。</p>
荒木会長	<p>何か質問、意見はあるか。</p>
	<p>(質疑、意見なし)</p>
荒木会長	<p>これで閉会とする。</p>

以上